

冬休みに向けた指導

指導の前提があるから、家庭にかえす

昨年から、冬休みの課題が子どもに任されることになりました。

しかし、もちろんこのことは子どもたちを手放して冬休みに向かわせることではありません。

指導の前提があって、始めて子どもを家庭にかえすことができるわけです。

子どもには、自発性はあっても自主性はなく、自立の本能はあっても自律は学習によって身に付くものです。

このことを教師は肝に銘じておかなければいけないのではないのでしょうか。

このことが分かっているならば、教師の役割は「一斉・画一」課題の時よりむしろ重たくなることが分かるでしょう。

そうです、教師はしんどくなったのです。

私は、担任時代、冬休み3週間前に自由研究の1回目の指導をしてきました。

自由研究の内容を1週間後までに決めましょう。

こう宣言して、プリントを配布しました。

国語大好きさん カタカナでできた漢字を探そう

教科書の物語の全文暗唱

冬の季語で100句つくる

算数大好きさん 身の回りにある、長方形、平行四辺形、台形さがしデジカメで撮って整理する。

社会大好きさん 市町村マンホール調べ

一つのニュースを追ってみよう

カントリーサイン調べ

などなど

このような例示プリントを配って、具体的なイメージを子どもたちに持たせてあげるのがです。

こうすることが、発想のヒントになります。そんなことでいいのか、と思うはずですが。

そして、私は次のような話もしました。

よく模造紙なんかには、歴史人物しらべをしてくる人がいるけれど、ノートにした方がそのあと使いやすいし、とっておきやすいと思うなあ。模造紙は結局ゴミになるこ

とが多いな。格好付けなくて良いから、本当に役に立つものにするんだよ。見栄えも大事だけど、長く使えるようなものにするんだよ。あとで家の壁に貼るから模造紙の方がいいとか、ノートの方が授業中も使えるからいいとか、そういうことを考えてまとめ方も決めるといいよ。

こうして、自由研究のテーマは何とかが決まるわけです。

それでも、ひとりで考えられない子がいますから、それは一緒に考えてあげます。

さらに、これで終わってはいけません。

それを、「どの手順で」、「いつ」、「どうやって」、「何を使って」つくるのかを1枚のプリントに書かせます。

なぜかというところ、工作の自由研究をやる子に多いのですが、「先生、材料が集まらなかったから、習字にしたよ」といって1枚の殴り書きのような習字を出してくる子どもがいるからです。

それでは、いけません。

その子は、自分にも、冬休みそのものにも絶望してしまいますね。

子どもが、自分に絶望するような指導はしてはいけないのです。

ですから、材料がきちんと集まるかどうかまでを、教師は確認してあげて、そこまでが指導となるのです。

めあてを立てさせる

さらに、「生活」「学習」「手伝い」のめあてを立てさせます。（「手伝い」を入れているのには訳があります。先生方、「手伝い」と「学力」相関があるということご存じですか？）

このめあてが、たいていの場合、めあてになっていないわけです。

例えば「漢字をがんばる」なんて書いてくるわけですね。

それを、どうやって「めあて」化するかが先生の腕の見せ所です。

めあてというのは、「ライン」です。だから、その線を越えられれば、「」超えられなければ「」と、明確に自己評価できる内容でなければなりません。

そうしためあてにします。

例えば、「1日教科書5ページ音読する」「計算ドリルを1日2ページする」等となっていればよいわけです。

更に、これで終わりません。

学級通信に、全員の目標、自由研究のテーマを記載します。

更に、更にどのような意図で指導した結果このような「めあて」になったのかを説明し、ご家庭ではどのように子どもに関わっていただきたいかも書きます。

ここまでして、ワンセットの指導となります。

そうすることで、教師と子ども、教師と保護者のあらぬ行き違いを防ぐことにもなります。

また、何より、子どもが自分のたてためあてを達成することができるようになるのです。